

で き こ と

「第52回学校読書調査」の集計結果が、毎日新聞と雑誌『学校図書館』に掲載されました。これは子どもたちの読書の実態や傾向、子どもを取り巻く読書環境などを、アンケートをもとに調査したものです。このような、子どもを対象とした全国規模の読書調査は国際的にも珍しく、子どもと読書の関わりを調べるうえで貴重なデータとなっています。

本調査は1954年に学校図書館法が施行されたのをきっかけとして始められ、以降毎年行われています。今回は2006年6月に、全国118の学校から、1万1千人以上の生徒を対象に調査が行われました。

(裏面にて、概要を紹介します。)

子ども図書研究室のテーマ展示

ただいま展示中です!

「まめ・マメ・豆の本」

静岡県読書ガイドブック『本とともに』おすすめ本
第18回読書感想画中央コンクール指定図書
新着図書も常時展示中です。

イベント情報

いいのかずよしさんとあそぼう

会場：浜松市貴布祢 3000 なゆた・浜北 なゆたホール

「おっと、痛快絵本の読み語りの旅でい! -浜松の宿-」

日時：平成19年1月20日(土) 13:30~15:30

参加費：大人 800円 / 高校生以下 200円

定員：300名

「あさたろうに変身でい!」

日時：平成19年1月21日(日) 13:00~16:00

材料費：1人500円 / 他、用意するものあり

定員：50組

*主催・お問い合わせ・お申し込み

浜北子ども劇場

TEL: 053-586-4804 FAX: 053-586-6365

<http://www.geocities.jp/hamakitakodomogeikijou/index.htm>

新着図書から

絵本

『ねむいねむいおはなし』



ユリ・シュルヴィッツ / さく

さくま ゆみこ / やく

あすなる書房

2006年9月

夜は、おつきさまもおうちも、テーブルやカーテンも、みんなみんなねむくなる。ふと、どこからか聞こえてきた楽しい音楽に踊りだしたお皿が足をすべらせてガチャン。時計もカッコウ!と飛び出すから男の子も目をあけるけれど、やがてだんだん静かになるおうちの中で、みんなやっぱりねむくなって、ぐっすり。

読んでもらっても自分で読んで、「ねむいねむい」と繰り返すリズムカルな調子に、つい眠くなる。穏やかな青色の絵も眠気を誘う、おやすみ前におすすめの1冊。【幼児から】(宮崎)

絵本

『うんちのちから』



ホ・ウンミ / ぶん

キム・ビョンホ / え

しん もとか / やく

主婦の友社

2006年10月

うんちのちからってなんだろう、そんな好奇心を持って本を開くと、「うわあ、このうんち、ちょっとみて!」と親しげに語りかけられる。うんちを見れば分かること。うんちを食べる虫や動物たち。鮮やかな色彩と、メリハリの利いた絵も楽しく、読み進めるうちに、次々とうんちの秘密が明かされていく。

韓国の知識の絵本であるが、海外の絵本という印象は受けない。排泄物への興味は万国共通であるということに新鮮な、そしてうれしい驚きを感じた。【4、5歳から】 (鈴木)

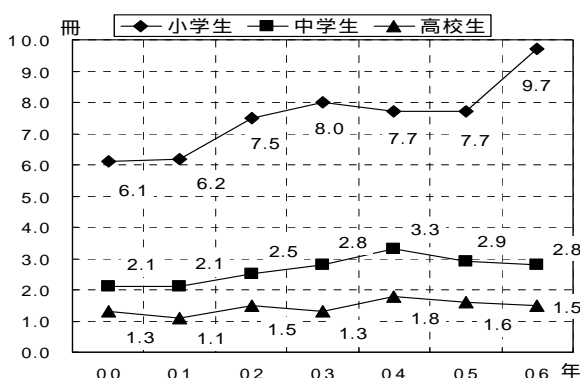
第52回学校読書調査 紹介

第52回学校読書調査では、子どもたちに次のような質問を行い、結果を集計している。

5月1カ月の間に、本を何冊ぐらい読みましたか / 雑誌を何冊ぐらい読みましたか / 5月に読んだ本の名前を覚えているだけ挙げてください / ふだん読んでいる雑誌はなんですか / 学校のある日は、どんな時間に本を読みますか / 本を読んでもどのようなことがありましたか / 一番読みたいのはどんな本ですか、それはどんな種類の本ですか / 好きな作家はいますか、それは誰ですか

そこで、2006年10月27日の『毎日新聞』（毎日新聞社）と『学校図書館』（全国学校図書館協議会）の2006年11月号に掲載された結果をもとに、集計結果の一部を紹介する。

* 1ヶ月間に読んだ本の平均冊数



小学生に増加の傾向がみられるが、中学生・高校生は少ない冊数のまま停滞している。

なお『学校図書館』では、小学生の読書平均冊数が2.0冊の伸びを示したことに対し、朝読書などの読書指導が充実してきたため・“かいけつゾロリ”（原ゆたか）など、人気のあるシリーズものが数多く出版されたためなどの分析をしている。

今の小学生たちは、子どもの読書の大切さが見直され、読み聞かせや「朝読書」が活発化するなかで育ってきた。読書の楽しみを知った子どもたちが、中学生になっても、本と触れ合う機会を持ち続けられることに期待したい。

* 一番読みたい本

全体的としては「楽しい本」(21%)、「感動する本」(24%)、「ワクワクするような本」(24%)が読みたい本として支持されている。

また、男女差・年齢差による違いも大きい。例えば「感動する本」は、小学生男子は5%しか支持していないが、高校生女子では50%が“一番読みたい本”として挙げている。

このように、性別・年齢による好みの違いは数値上でもはっきりと示される。ブックトーク等を行う際には、相手の層が好む本を知り、それを参考にしたうえで本を選んでいきたい。

なお、『学校図書館』では

・年齢を重ねるごとに、「ワクワクするような本」の支持が低くなり、その分「感動する本」の支持が上がっている

・「ためになる本」(11%)、「勉強に役立つ本」(3%)が、“一番読みたい本”として少数ながらも支持されている

といった点に着目している。

他、子どもに対する読書調査として、「学校図書館調査」(『学校図書館』2006年11月号)、「親と子の読書活動等に関する調査」(『親と子の読書活動等に関する調査報告書』)なども行われている。子どもたちの読書環境を知っておくためにも、一度目を通しておきたい。

所蔵資料から

知識

『読書世論調査』



2006年版
毎日新聞社
2006年3月

2005年に行われた「第51回学校読書調査」のデータと解説をまとめた報告書。「第59回読書世論調査」の結果も併せて載せている。2006年の報告書は2007年春発行予定。【高校生から】

* 本資料は閲覧室（請求記号：019.3/トク）にあります。

（渡辺勝）

* 表紙画像はすべて出版社の許可を得て掲載しています。